

# 体験活動推進プロジェクト 全国的な普及啓発の実施

青少年の体験活動の重要性に関する普及啓発

体験の風をおこそう運動推進委員会

## 【事業のポイント】

- 体験活動の推進のため、次の二つの側面から取組を実施
  - 青少年とその家族を対象とした体験の機会と場の拡充
  - 青少年教育指導者や保護者等を対象とした体験の重要性の普及啓発
- 10月を「体験の風をおこそう推進月間」として、上記1の取組に関する強調月間を定めるほか、統一イベント実施デーを定めるなどして、青少年教育に携わる複数の団体が連携し、全国規模で体験活動を普及啓発



体験の風をおこそうフォーラム

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少していることが示されている。(国立青少年教育振興機構「子供の体験活動の実態に関する調査研究」平成22年、国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」平成22年度調査)。

### (2) ねらい

子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子供たちの多様な体験の機会や場を意図的に確保するとともに、指導者、保護者等に対しては子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に普及・啓発し、社会全体で体験活動を推進する機運を高める。

## 2. 実施概要

### (1) 実施主体

体験の風をおこそう運動推進委員会

委員長 松本零士

委員：浅野万里子(ガールスカウト日本連盟会長)、石川正夫(全国公民館連合会会長)、井出久(社会通信教育協会会長)、大野幸男(ハーモニーセンター理事長)、岡島成行(自然体験活動推進協議会会長)、奥島孝康(ボーイスカウト日本連盟理事長)、小野清子(全国ラジオ体操連盟会長)、尾上浩一(日本PTA全国協議会会長)、小西亘(日本レクリエーション協会理事長)、齊藤斗志二(全国スポーツ推進委員連合会会長)、坂本祐之輔(日本体育協会日本スポーツ少年団本部長)、(会計責任者)田中壮一郎(国立青少年教育振興機構理事長)、西舘好子(日本子守唄協会理事長)、藤野興一(全国児童養護施設協議会会長)、星野敏男(日本キャンプ協会会長)、丸山康昭(全国子ども会連合会会長)、水野幸(日本ユースホステル協会理事長)

### (2) 開催実績

月 日	内 容
平成26年7月10日	体験の風をおこそう運動推進委員会(第1回) ※委託費外で実施 ・ 体験の風をおこそうフォーラムの開催日、内容について検討 ・ 体験の風をおこそう推進月間の取組について検討 ・ 青少年の体験活動の重要性に関する普及啓発の取組について検討
平成26年8月20日	「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議(第1回) ・ 体験活動を普及啓発していく上で必要と思われることについて検討
平成26年8月25日	「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議(第2回) ・ 体験活動を普及啓発していく上で必要な普及啓発資料の内容について検討
平成26年9月2日	「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議(第3回) ・ 普及啓発資料の項目について検討

平成26年9月4日	「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議(第4回) ・ 普及啓発資料の原稿について検討
平成26年9月11日	「体験の風をおこそうフォーラム」開催 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者数: 269名 内容: 青少年期の体験の大切さに関する講演、文部科学省来賓挨拶、青少年団体等による実践報告等
平成26年10月	体験の風をおこそう推進月間 ・ 「体験の風をおこそう」運動普及啓発資料、のぼり旗を、同運動に賛同して事業を実施する団体に配布し、同運動の普及啓発に協力を依頼した。
平成26年12月19日	体験の風をおこそう運動推進委員会(第2回) ※委託費外で実施 ・ 体験の風をおこそうフォーラムの成果と課題について検討 ・ 体験の風をおこそう推進月間の成果と課題について検討

### (3) 推進月間の設定

- ・ 体験の風をおこそう運動推進委員会(以下「推進委員会」という。)では、10月を体験の風をおこそう推進月間(以下「推進月間」という。)と定め、子供たちやその家族に体験活動の機会や場を提供するとともに、保護者、指導者等に対して体験の重要性に関する普及啓発を行った。
- ・ 体験の風をおこそう推進月間のプレイベントとして、体験の風をおこそうフォーラムを9月11日に開催し、青少年教育指導者、青少年行政担当者等に対して体験の重要性に関する普及啓発を行った。
- ・ 推進月間の認知度を高めるため、統一イベントデー(10月25日、土曜日)を定めたほか、イベント会場には同じデザインの「のぼり旗」を掲げることで、全国規模で体験活動を推進する運動としての一体感をもたせるように努めた。

### (4) 事例の収集と発信

- ・ 「体験の風をおこそうフォーラム」では、推進委員会が情報収集した中から2団体を選び、実践事例を報告する場を設けた。その成果については、紙媒体だけでなく、「体験の風をおこそう」運動ホームページにおいて情報発信を行った。同ホームページでは、このほか同運動に関する取組に関する情報発信に努めた。

### (5) 意見交換の場の設定

- ・ 推進委員会には青少年の健全育成にかかわる複数の団体の代表者が一堂に会し、各団体の取組について情報交換を行い、互いの取組の参考とした。
- ・ 地域の指導者に参画していただき、「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議を立ち上げ、体験活動の普及啓発に関する意見交換を行い、その内容を踏まえて普及啓発資料を作成した。
- ・ 「体験の風をおこそうフォーラム」では、2団体から実践事例の報告をいただき、参加者との質疑応答の時間を設け、意見交換の場とした。

### (6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

- ・ 体験活動を普及啓発していく上で必要なことについて「体験の風をおこそう」運動普及啓発プロジェクトチーム会議で議論した結果、子どもたちが、体験活動に関するイベント(体験の風をおこそう推進月間事業(10月)等)に参加したことをきっかけとして、その後家庭や地域においても継続して様々な体験活動ができるよう促す資料が効果的であるという結論に達した。

そこで、子どもたちが容易に体験活動にチャレンジできるガイドブックを普及啓発資料として作成した。普及啓発資料の内容は、家庭でできるものを選び、四季に分けて提示した。

#### 普及啓発資料の概要

春: 早起きして春らしいものを三つ見付ける 等

夏: 夏の野菜を三種類言う 等

秋: 自然の中で感じたことを俳句にする 等

冬: 夜空を見ながら、友達に星座を三つ教える 等

この普及啓発資料は、青少年団体、児童館等を通して、青少年教育指導者、社会教育関係者、等で説明を加え配布した。

- ・ 推進委員会では、これまで各団体が個別に実施していた事業を、「体験の風をおこそう」運動という名の下に一つにつなげることに努めた。このことにより、体験活動の重要性に関する普及啓発、そして青少年の体験の機会の場と提供する取組が、日本全体の大きな動きとして国民の目にとまり、体験活動に関する国民の関心を高めることを目指した。

### 3. 成果と課題

#### (1) 事業成果

・「体験の風をおこそうフォーラム」の社会教育関係者の出席者数は、前年度(11名)と比べて、33名に増加した。また、同フォーラムに出席した社会教育関係者の中から(社会通信教育協会)が、新たに推進委員会に加わった。このことにより、「体験の風をおこそう」運動を社会教育関係者に普及啓発するきっかけづくりができた。

#### (2) 事業運営上の課題

・「体験の風をおこそう」運動を国民運動として推進していくためには、関係機関・団体等との連携、そして保護者や地域の人たちを巻き込んで、社会全体で体験活動を推進する機運を高めていくよう努める必要がある。

#### (3) 事業成果の普及啓発の課題

・ 推進委員会の委員が所属する団体を中心となり、各団体が主催する事業において、青少年の体験活動の重要性について説明する時間(「体験の風をおこそう」運動についての説明時間)を設け、その普及啓発に努めた。推進委員会の委員が所属する団体が、地方組織・施設を有していることから、これらを核として、引き続き、地方での普及啓発活動に努めていく必要がある。  
・ 社会全体で体験活動を推進する機運を高めていくためには、より多くの関係機関・団体等との連携、そして保護者や地域の人たちを巻き込んで、普及啓発活動を推進する体制を構築する必要がある。

### 4. 団体プロフィール

体験の風をおこそう運動推進委員会

平成22年5月発足。平成26年3月現在17団体が加盟。

事務局: 国立青少年教育振興機構 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

ホームページ<http://www.niye.go.jp/services/taikennokaze/> Eメール[taikennokaze@niye.go.jp](mailto:taikennokaze@niye.go.jp)